科目名称	基礎看護学方法論Ⅱ(日常生活行動を整える援助)	学年学期	単位数	時間数
		1 学年前期	1	30
担当教員	山本 はる子　上原 茂相	授業に関わる実務経験	■ 有 (看護師) □ 無	

【1】 授業概要

日常生活援助技術の原理・原則を学び、対象のニーズに応じた科学的根拠に基づいた日常生活援助が実践できる。

【2】 学習目標

1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法が説明できる。
2. 日常生活における活動の意義を理解し、効果的な活動への看護技術を習得できる。
3. 人間の基本的な姿勢と体位が理解でき、援助方法が説明できる。
4. 休息・睡眠の必要性を理解し、安楽安眠への看護技術を習得できる。
5. 身体の清潔の意義を理解し、対象に応じた援助方法について説明できる。
6. 衣生活の意義を理解し対象に応じた援助技術について習得できる。
7. 食事・栄養の意義を理解し、対象に適した援助技術を習得できる。
8. 排泄の意義を理解し、対象に応じた援助技術を習得できる。

【3】 第 2 看護学科ディプロマポリシーとの関連性

■ 1. 生活者としての人間の理解
■ 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
■ 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
■ 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
□ 5. 多職種との連携・協働
□ 6. 地域医療の理解と生活の支援
■ 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態	教員
1	基礎看護学方法論Ⅱの授業概要・環境調整技術(1)	講義	上原 茂相
2	環境調整技術(2)	講義	
3	活動・休息援助技術(1)	講義	
4	活動・休息援助技術(2)	講義	
5	睡眠と休息の援助技術	講義	
6	清潔援助の基礎知識と援助の実際	講義	山本 はる子
7	衣生活の基礎知識と援助の実際	講義	
8	食事援助の基礎知識と食事介助の実際	講義	
9	摂食・嚥下障害、非経口栄養摂取の基礎知識と援助の実際	講義	
10	自然排尿および自然排便の基礎知識と援助の実際	講義	
11	排尿を促す援助(導尿)	演習	
12	排便を促す援助	講義	
13	演習計画書を基に演習	演習	
14			
15	筆記試験・まとめ		

【5】 評価方法

科目評価は、 1～5:筆記試験 30%　6～14:筆記試験・演習態度・レポート内容 70%、 出席状況、受講態度等で総合的に評価する。

【6】 教科書

任 和子:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ ，医学書院，2022 年

【7】 参考書

佐藤久美他:「看護技術が見える(1)(2)」，メディックメディア,2018 年

任 和子他:「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」， 医学書院,2014 年

大久保暢子編:「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」. 日本看護協会出版会,2016 年

【8】 受講生へのメッセージ

既習の基礎的看護技術の知識を確認しながら、対象に応じた日常生活の援助技術を学習しましょう。